

# 女性 が 主役

## 金儲けより人儲け、 人生に無駄はありません

私を育ててくれた会社を潰せない。社員を裏切ることにはできない。

株式会社伊藤染工場  
代表取締役社長  
**伊藤 純子**  
text by Junko Ito



自社製作の平織をきて地元の祭りに参加

一年後に病に倒れた母の看病で急遽帰郷し、呉服部門の仕事を手伝ったのが私の転機となりました。

祖父は丁稚の身から一念発起して大正十年に独立し、寝る間もなく身を粉にして働いたと聞きます。父も時代のニーズに合わせ改革

父の誤解が、亡き兄に代わり専務となる「きつかけ」となった

祖父がつくり、父が育てた半纏や旗、幕を染める会社を、三代目として継承したのは平成十三年のことです。私は三人兄妹の末っ子で一人の兄がおり、家業に入ることなど微塵も考えていませんでした。短大を卒業後そのまま東京で就職しましたが、

さらに、父がガンに侵され、平成八年に兄が急逝したため、父の世話の片手間程度に考えていた仕事に本気で取り組むこととなりました。会社の心臓部であるボーイラーの資格者は病の父と定年間の社員だ

けで、まず資格を取るための勉強を始めました。そんな姿を見て父が、「こいつはやる気がある」と誤解したのが、亡き兄に代わり専務となるきっかけでした。

しかし、創業初の累積赤字で存続も危うい状況を十分に把握していない上、トップダウンで父が会社を引っ張ってきたので、力も何も無い私が専務になっても、簡単には認められるものはありません。

会社を潰すことはできない。社員を裏切ることにはできない

私が目にした社内は、誇りをもって良いものを作ろうという気持ちがあつても、横のつながりが薄く、他部署のことは他人事の職人集団でした。服物は脱ぎ散らかしたままが当たり前で、このままでは潰れると、軽

営のわからない私にも危機感が生まれました。

工場を回り、サンダルや長靴を揃えて歩きましたが、一週間程たつと気づいた社員が揃え始め、こういうことの繰り返しなのだと感じました。

私を育ててくれた会社を潰すことはできない。こんな状況の中でも頑張ってくれている社員を裏切ることにはできない。その一心でした。

立つこともできなくなつた父を、会社に続く自宅で介護することを決意しましたが、社長業のかたわら思う存分介護できたのは、社員の協力と理解があつたからです。

仕事に誇りと信念をもつて、病と闘い続けた父も、平成十五年に世界しました。真の舵取を失つた状況の中で、私が赤ん坊の頃から働いていた社員は、不安と不満でいっぱいだったと思います。

私が社長に就任した後に辞めて



笑顔いっぱい伊藤染工場スタッフ

いった職人もいましたが、後戻りする  
ことは考えませんでした。「前向き  
に取り組むことでしか問題は解決し  
ない」と、私に勇気と力を与えてくれ  
たのは、地元の先輩事業者の方々や全  
国の同業者の仲間たちでした。

決算書を見ることもできなかった  
私です。甘い決断だったと、後悔で  
眠れない夜もありましたが「伊藤  
さんならできるよ」と何度も言っ  
ていただき「今思うと暗示にかけられ  
ていたと思います」、そして「金儲け  
より人儲け」「人生に  
無駄なことは何一つ  
ありません。お父様  
の死にも意味があり  
ます」。そう教えてい  
ただき、たくさんの学  
びの場を与えていた  
できました。

**すべてのことが、  
私を育てる。  
養分だったと  
素直に思える**

中腰での作業が多  
く、冷たい水にさらさ  
れた職人の手はいつも  
赤や青に染まっていま  
す。自分を育ててくれ  
たこの会社が「3Kの仕  
事だ」と思っていたこ  
ろに、大きな間違いが  
ありました。来てくれ  
るだけでありがたい、  
そんな気持ちで雇い

入れていたころの人は、一人も長続  
きしませんでした。

社員と一緒に工場に入り、物をつ  
くるといふ楽しさを知り、さま  
ざまな学びを得て社内が少しずつ変  
わり始める。「染物にたずさわりたい」  
と志をもった若者が集まりだしま  
した。自分の考えがそのまま会社を  
つくりだしてしまうことを知りまし  
た。業況も徐々に回復し、すべてのこ  
とが今の私を育てるための養分だつた  
と素直に思え、感謝の思いでいっぱい  
です。

社員の生立ちおいたはさまざまです。そ  
の分だけいろいろな性格もあります  
が、私ができることは社員のすばらし  
い点に目を向け、伸ばしてあげること  
だと思っています。昨日気づけなかつ  
た自分を今日気づくことができる、  
そんな社員の成長が私の喜びです。  
社員の笑顔が自分の幸せだと心から  
思え、社員が私を成長させてくれた  
と思います。

我が社の理念は「共に感動」。お客  
様から「ありがとう」と言われる物づ  
くりをめざし、日々の朝礼で、理念と  
行動姿勢を共に唱和します。そして、  
以前は製造現場までお客様の声が届  
きにくい会社でしたが、お客様から届  
いた「ありがとう」のメールや手紙を  
読み伝えると涙を浮かべながら聞い



採用期間中の課題。社長との交換日記は1日も休まない約束

ていたり、「社長、今日は朝から感動を  
ありがとう」と言います」と言ってくれ  
たり、「こちらこそありがとう」と、お  
礼を言う毎日になりました。  
「めんどくさい」と思うことを、丁  
寧にやりこなす精神力と技術力を  
磨いていく。そのためにも物づくり  
は、人格向上の上にあると考えます。  
日本各地の伝統文化を守り続ける  
補佐役として、お客様の感動が自分  
たちの真の感動となるよう、父が病  
みの中で教えてくれた信念と誇りを一  
人一人に伝え続けます。  
それが、この道を与えてくれた祖  
父、父、兄、そして私を支え、ご縁を  
下さった多くの方々への恩返しだと肝  
に銘じ、二五名の社員と共に学び続  
けて参ります。